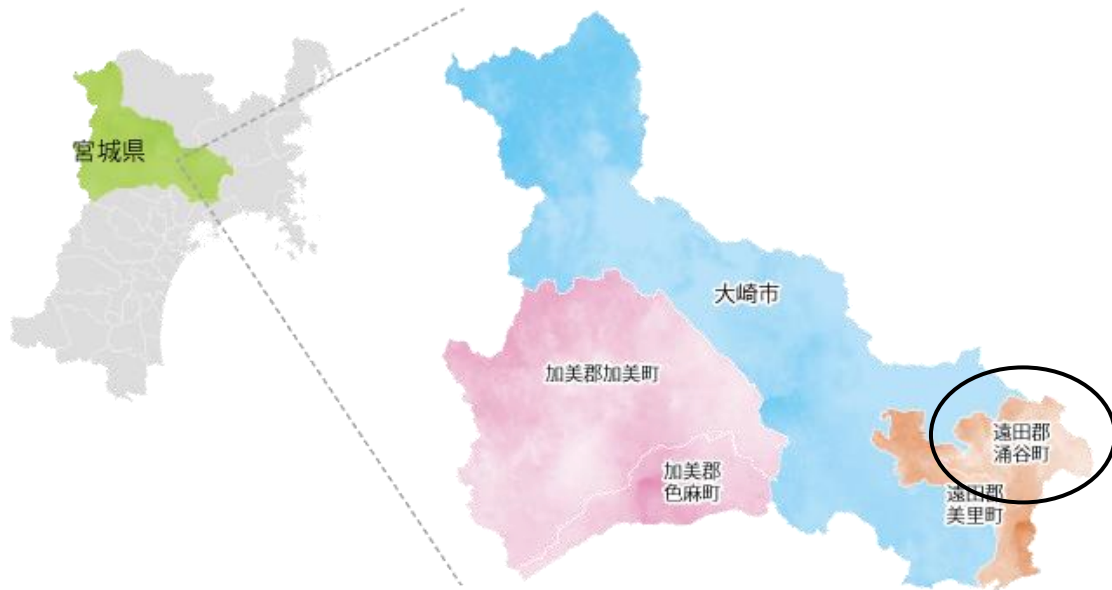


# 子実用とうもろこし生産に 至った経緯と推進体制

宮城県涌谷町農林振興課

# 涌谷町の概要



総面積	8,216ha
農地面積	3,617ha
うち水田面積	2,981ha
うち圃場整備率	83%

大崎平野の東部に位置し、基幹作物である水稲を中心に酪農・肉用牛や施設野菜である小ネギ・ほうれん草の生産が盛んに行われている。



🌾 転作作物の作付実績面積（表1）

(ha)

	麦	大豆	牧草	青刈りとうもろこし	子実用とうもろこし	飼料用米	WCS	※参考 主食用米 ( ) 内水稲作付率
R2実績	149.55	332.80	167.79	25.43		215.57	17.56	1,764.36 (60.7%)
R3実績	213.01	357.76	167.66	26.98		313.27	13.05	1,617.03 (55.8%)
R4実績	160.40	409.44	146.39	33.11	38.52	364.15	29.57	1,490.72 (51.6%)
R4-R2 比較	10.85	76.64	▲21.40	7.68	38.52	148.58	12.01	▲273.64

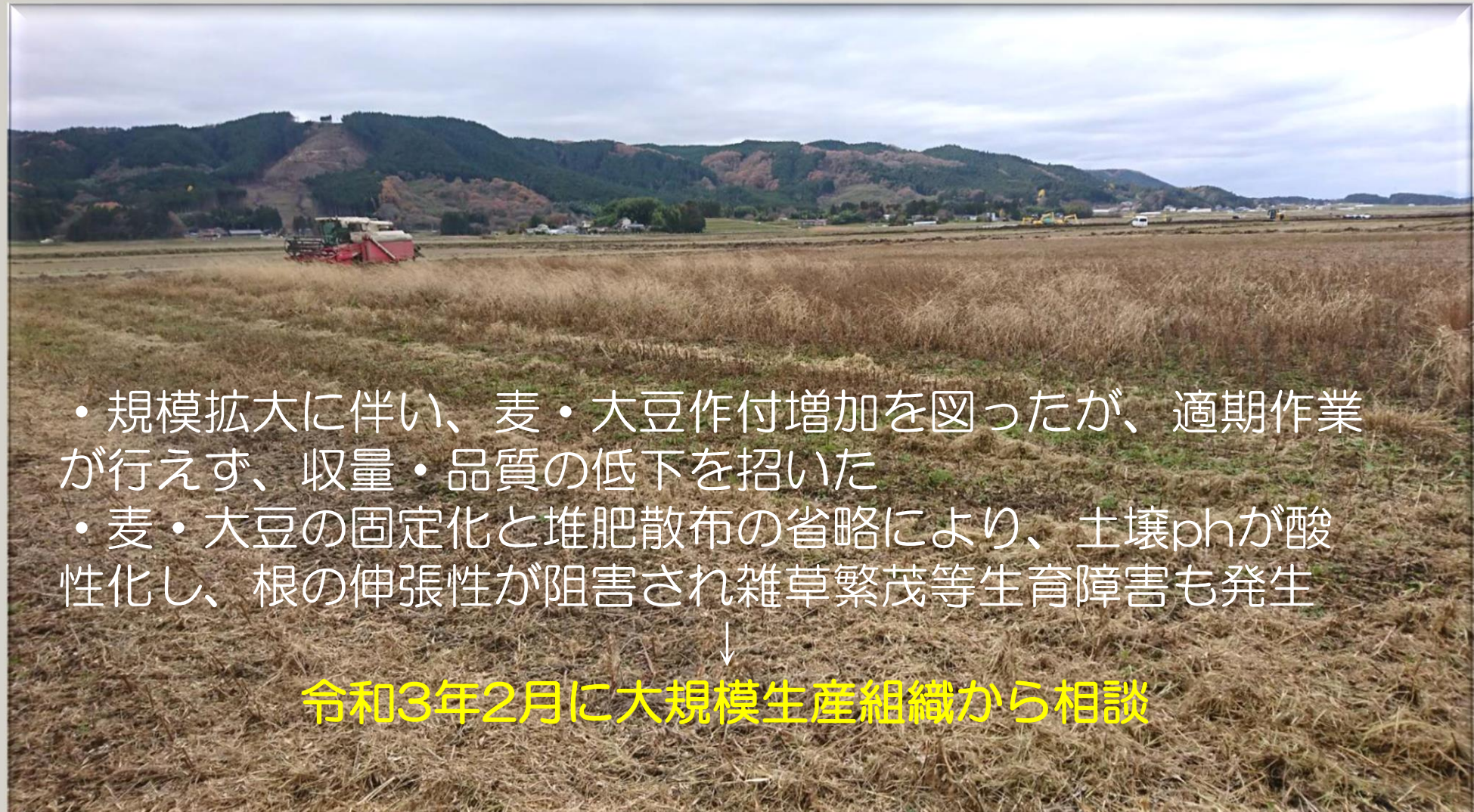
※二毛作面積含む

## 🌾 生産組織等の経営規模

高齢化による生産人口の減少に加え、新型コロナウイルス感染症の影響による米価下落や生産資材の高騰が離農に拍車をかけ、麦・大豆・飼料作物生産を主とする生産組織等への集積が急速に進んでいる。

○麦・大豆・飼料作物生産組織の規模（表2）

生産規模	10ha未満		10ha～30ha未満		30ha～50ha未満		50ha以上		合計	
	経営体数	面積	経営体数	面積	経営体数	面積	経営体数	面積	経営体数	面積
H30	8戸	64.18ha	12戸	219.91ha	8戸	317.97ha	4戸	300.57ha	32戸	902.63ha
R4	14戸	91.32ha	13戸	249.59ha	6戸	240.95ha	5戸	502.18ha	38戸	1,084.04ha
差	6戸	27.14ha	1戸	29.68ha	▲2戸	▲77.02ha	1戸	201.61ha	6戸	181.41ha



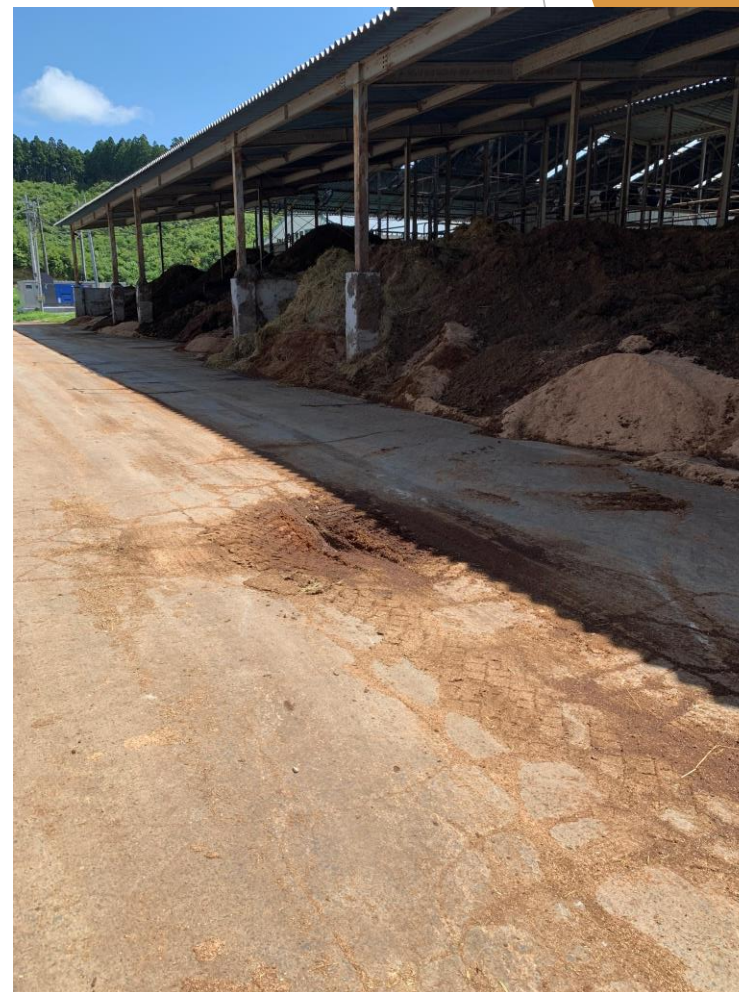
- ・規模拡大に伴い、麦・大豆作付増加を図ったが、適期作業が行えず、収量・品質の低下を招いた
- ・麦・大豆の固定化と堆肥散布の省略により、土壌pHが酸性化し、根の伸張性が阻害され雑草繁茂等生育障害も発生

↓  
令和3年2月に大規模生産組織から相談



## ○堆肥の処理

1,000頭規模の乳牛から生産される堆肥5,000t（製品重）の有効活用



## ○既存の設備を使用し設備投資を抑える



大豆の播種機を代用



汎用コンバインのヘッダーを交換（10年以上前の型式にも対応）



汎用型乾燥機（山本製作所HDシリーズ）



- ①大豆生産組織を主体とし設備投資を抑える
- ②水田活用の直接支払い交付金の5年ルールに対応するためローテーションを行う
- ③作期分散を図り、適期作業を行う





### R3.12

10a当たりの**労働時間の削減**と、大量の茎葉残渣が有機物として土に残ることによる**土壌改善**を目的に子実用とうもろこしの導入を開始するため、畜産試験場・普及センターの協力をいただき、セミナーを開催

○令和4年度 農林水産省の事業を活用「**畜産生産力・生産体制強化対策事業（国産濃厚飼料生産・利用拡大対策）**」ソフト事業の導入により生産体制を構築（栽培講習会・視察研修・国産飼料を給与された精肉の販路拡大）









# 涌谷町における子実用とうもろこし生産と 利用拡大に向けた取組推進体制



## R4 事業体制



# 宮城県での子実用とうもろこし作型例

	~3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月~
 とうもろこし	堆肥散布	ほ場準備	●	▼	▼	▼	■	■	すき込み
 水稻		●	▼		水管理	水管理	防除	■	ワラ上げ
 小麦		▼				■		●	▼
 大豆	堆肥散布			●	▼	培土	培土	防除	防除

台風回避

● 播種      ▼ 除草剤      ■ 収穫期